

[共同研究(学長裁量経費)報告書]

# SDGs未来プロジェクト

-学園・大学のビジョンを具体化する教育の試行-

飯野 由美子 (経済学部教授)

市川 洋子 (教育学部教授)

庄司 真理子 (国際学部教授)

## はじめに

本報告書は、2021年度共同研究(学長裁量経費)の活動内容に関する中間報告である。本原稿執筆時に、2021年度の授業が終了していないため、最終的な報告は2022年度に譲りたい。ここでは、途中経過を報告する。

### 1. 申請概要<sup>1)</sup>

敬愛学園では、2020年度から持続可能な開発目標(SDGs)を基本方針に加えた。しかし、高いところに優れた学園の方針・大学の方針が存在しても、それを現場の教員がどうSDGsと結びつけて具体的な教育に落とし込んでいくかについては、方向やしくみがまだ定まっていない。SDGs教育を学園で定着させていく際には、まずは教育学部を有し教育開発研究力を有した大学で、安定してSDGs教育を実践するベースを作っておく必要がある。

そこで、本研究の目的を、大学生にとって実践可能で効果的なSDGs教育のプロトタイプを作ることに置いた。それを、3学部から教員が1人ずつ担当し、それぞれの学部の特性やシナジー効果を勘案し磨き上げるべき学生の資質・能力を見定めた上で、現実に実践可能な教育方法を工夫し、共同研究を通じて試行錯誤を行うこととした。

大学レベルでのプロトタイプを作った先には、それを学園全体に移植する地平が拓ける。大学生に有効なSDGs教育が、千葉敬愛短期大学でも同様に有効であるか、また、系列高校の高校生が参加する時には、それにアレンジを加えることによって高校生に適合したプログラムに変える方向性、やり方を工夫して高大連携を利用し大学生・短大生と高校生が共同でグループワークを行う方向性、学園を超えて市民と協働する方向性、これらを試すサンドボックス的な実証実験の効果が望まれる。

教育方法を開発するベースの作業を行う各学部の教員としては、それぞれの研究立場からSDGsに別の視野から関心を持ってきた国際学部：庄司真理子(座長)、教育学部：市川洋子、経済学部：飯野由美子が担当することとした。その他に、SDGsとSociety5.0との関係に詳しい三幣真理、学園全体での検討・試行に関わる際参画を乞うキーパーソンとして、まずは敬愛大学ビジョン2030に深く関わるIR・広報室工藤龍雄室長のアドバイスと支援を受けた。

本SDGs未来プロジェクトの具体的内容は、①ESG投資ワークショップ、②学園全体を対

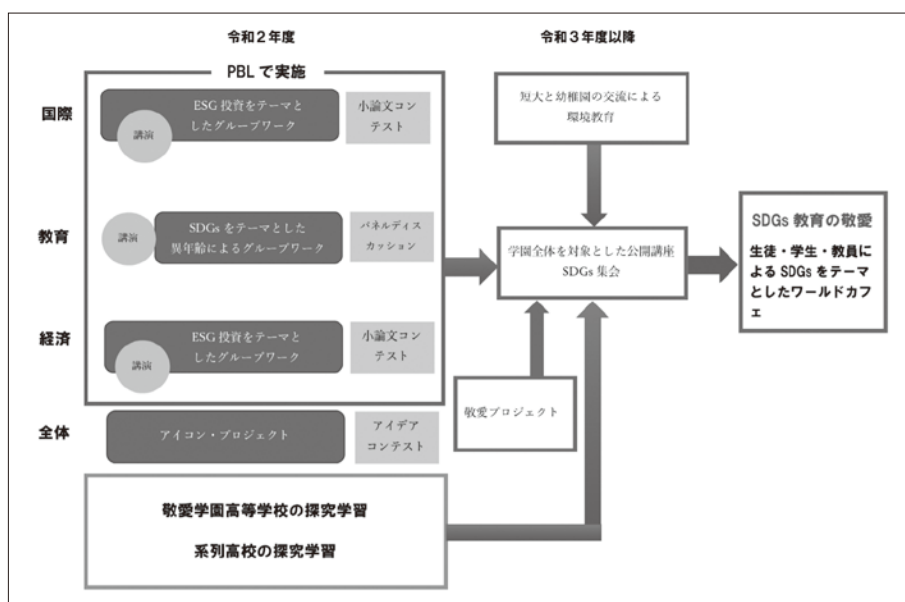


図1

象としたイベント、③活動記録の発表、の3つから成る（この実行内容を主体別・年度別に整理したものが【図1】である。）

**(注)**

1) なお、申請概要は、2022年3月発行の本学紀要『国際研究』にも同様の内容を記している。ここでは全体像の説明のために、重複するが「申請概要」について説明する。

**2. 活動計画**

ここでは前述の申請概要に従って活動計画を記す。

**1) ESG投資**

ESG投資ワークショップは、東京証券取引所・日本証券業協会がCSRの枠組みで学校向けに提供している「株式学習ゲーム」をプラットフォームにしたSDGs銘柄への投資選択のグループワークである。市川ゼミで開発したPBLのツールを用いる。疑似的に与えられた1千万円を、グループごとに、東証一部上場、二部上場、マザーズ、ETFを対象として、SDGsを積極的に採り入れ株価上昇に繋げている銘柄を選択し、ポートフォリオを組むワークを行う。広く3学部の有志学生で開始、軌道に乗り始めたら系列高校の高校生有志に、おいおい社会人にも加わってもらうことを企図したダイバーシティに富んだワークショップである。ESG投資ワークショップの行程表は以下の通りであった。

- 5月 末：oVice（仮想空間会議システム）オープン
- 6月 初：株式学習ゲームの説明会第1回目（videoも用意）
- 6月23日：東京証券取引所によるESG投資に関するレクチャー
- 夏休み中：oVice上でグループワーク継続、教員も入ってファシリテイト
- 後 期：中間報告
- 11 月：プレゼン草稿完成
- 12月1日：東京証券取引所によるESG投資レクチャー+ワークショップ進行チェック、

アドバイス

12月上旬：中間報告

2月上旬：最終報告

## 2) アイコン・プロジェクト

アイコンプロジェクトは、SDGs と敬愛大学が教えるビジョンの有機的連関性を明らかにし、大学のビジョンが身近に感じられるように学生たちのアイデアを募集し、シンプルな言葉、アイコンなどを検討し、大学に提案するというものである。具体的には、①地球全体の目標（SDGs）と学生自身の目標（夢）を、②敬愛学園のビジョン・敬愛大学ビジョン 2030・大学のディプロマ・ポリシー（DP）・各学部の DP と連携して、学生自身の目標を再検討するプロジェクトである。

①地球全体の目標（SDGs）と学生自身の目標（夢）の連携の意味：

- ・SDGs のアイコンは有名である。アイコンがあることによって、地球全体の目標がビジュアルにわかりやすく、身近に感じられる。
- ・学生たち個人の目標（夢）もアイコン化することによって、目標の明確化、自分自身の身についた目標として捉えなおす。



- ・いきなり自分の卑近な目標から入らず、地球全体の目標を一度考えてから、自分の目標を考えることによって、「自分事ではあるが、身の回りの社会に目を向けた目標を考えさせる。」すなわち学生の社会性を喚起することを狙っている。

②敬愛学園のビジョン・敬愛大学ビジョン 2030・大学 DP・各学部 DP との連携：

敬愛大学には、高い理念がすでに存在するが、大学の中で学生たちがこれを意識することは少ない。2020 年に考案された大学のビジョンは SDGs と親和性の高いものである。本学のこの高い理念を、SDGs との連携によって、学生たちの柔軟な頭で、これをアイコン化、可視化してもらい、そのプロセスで、身の回りの社会と自分の学生としての学びを再検討してもらおう。大学の理念を学生が身近なものとして認識することが狙いである。

## 3) 1 年次、2 年次異年齢混合グループによる Project Based Learning

1 年次、2 年次を 6 クラスに分け、異年齢混合グループ（1 グループ 4 人）による PBL を行う。それぞれ 2 人の教員の指導を受けながら学生が課題解決活動に取り組むことで、様々な能力（アカデミックスキル、チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション力、表現力、創造力など）を高めることを目的としている。各グループが、それぞれ身近な問題を解決するための SDGs プロジェクトを行い、成果をポスターセッション形式で発表する。

### 3. 活動内容

#### 1) 庄司ゼミの活動

アイコン・プロジェクトについては、1 年次生を対象として実施した。前期で第一弾のプロジェクトは完結し<sup>2)</sup>、第二弾は2022年2月に完結させる予定である。なお、活動概要は、『教育学術新聞』<sup>3)</sup>にも取り上げられた。

ESG 投資ワークショップは、経済学部 ESG 投資に国際学部の学生も参加し、本学の建学の精神である敬天愛人の理念を反映させたビジネスの在り方を検討した。ゼミでは昨年度から ESG 投資について学習している。このプロジェクトは3年ゼミ生を対象として行った。学生が、SDGs および ESG 投資の学習をレポートにまとめる折にマイ・ルーブリック（学生が自己の学習の進展度を常に自己評価する仕組み）を利用し、自己の立てた目標に立ち向かう力を育成する。

ESG 投資ワークショップの様子については、本学ホームページで活動概要を紹介している<sup>4)</sup>。これは年間プロジェクトであるため、2022年2月に結果が出される予定である。

なお、oVice を利用しての ESG 投資に関するグループワークについて、このアプリに学生たちが慣れるまでに時間がかかった。しかし、他大学の oVice を利用したグループ・ワークに関する研究会に参加した結果<sup>5)</sup>、今後も oVice を利用した教育は、増えていくものと考えられる。利用方法として、ZOOM をつないだ状態で、oVice も利用する。かつ、対面授業に出席している学生も、オンライン参加の学生もどちらも、同じ条件とする。すなわち ZOOM と oVice 双方を対面授業の学生も並行して利用することが効果的であることがわかった。

#### (注)

- 2) 第一弾は、拙稿「プロジェクト研究 報告書：SDGs 未来プロジェクトー 1 年前期のアイコン・プロジェクトを中心として」『国際研究』34号、2022年3月参照のこと。
- 3) 「学生・大学の両側から SDGs に取り組む「アイコン・プロジェクト」」『教育学術新聞』2021年12月に掲載された。
- 4) 「仮想イベントルーム上で「株式市場」について学び、オンライン株式学習ゲームに挑戦」  
<https://www.u-keiai.ac.jp/inter-study-blog/20210716/>  
「オンライン株式学習ゲームで ESG 投資について学ぶ 東京証券取引所による特別授業」  
[part2https://www.u-keiai.ac.jp/inter-study-blog/20211217/](https://www.u-keiai.ac.jp/inter-study-blog/20211217/)
- 5) ウェビナー「Zoom,Teams,oVice は三種の「神」媒体か？もはや教室のみが講義室ではない  
国際政治・地方行政のゲーミング比較を語る」日時：2022年1月23日（日）17:00-19:00  
媒体：Zoom 基調講演 白鳥令（獨協大学・東海大学名誉教授）  
第1部 3つのハイブリッド・ゲーミング  
報告：窪田好男（京都府立大学教授）、近藤敦（立命館大学講師）  
玉井良尚（立命館大学講師）、宮脇昇（立命館大学教授）  
山上亜紗美（京都府立大学講師）  
第2部 パネル・ディスカッション「コロナ時代のゲーミング」  
パネリスト：鐘ヶ江秀彦（立命館大学教授）  
窪田好男、近藤敦、宮脇昇、山上亜紗美（進行：玉井良尚）  
司会：近藤敦  
主催：立命館大学 Post コロナ社会提案公募研究プログラム  
「大学の学びを変えるハイブリッド・ゲーミングの比較検証の研究」代表者・宮脇

## 2) 市川（教育学部における1・2年合同ゼミ）の活動

1年次基礎演習Iと2年次専門研究Iを合同で展開し、異学年混合グループ（4人）によるProject Based Learningを実施した。そのために、1・2年生を6つのクラス（1クラス26～27名）に分け、クラスごとに1年担任・2年担任の2名体制を取ることにした。

SDGsをテーマとし、各グループで課題を設定し、自分たちでできることを実行していった。SDGsに係るプロジェクトがどのような取り組みなのかを学生がイメージできるよう、2回目の授業で、市野敬介氏（NPO 法人企業教育研究会）による講演を行い、小中学生がSDGsに取り組む様子を紹介してもらった。

成果をパネルディスカッション方式で発表した。本来であれば、3号館1階のラウンジを使って実施しようと考えていたが、コロナ禍により密を避けるため使用教室を会場とし、5会場を自由に動いて発表を聞く形を取った。発表チームは、自分たちの発表のどこを評価してほしいかを明記したループリックを作成し、発表を聞いた学生はそのループリックに記入するという学生同士による相互評価を行った。

SDGsをテーマとした2学年合同によるPBLは、学生だけでなく担当する教員にとっても初めての試みで、先の見通しが立てづらく、しかも途中から新型コロナウイルス感染が拡大するという悪条件下であったため、戸惑いや不安を感じる学生や教員が多かった。その一方で、学年を越えてコミュニケーションを図れるようになったこと、自分たちで課題を設定して取り組むことのよさと難しさを感じたこと、単なる調べ学習ではなく実際に現地に行って調査を行ったことなど、学生に与えた影響は大きかった。

## 3) 飯野「金融事情」での活動

後期金融事情の授業において株式学習ゲームを用いたESG投資ポートフォリオ組成のグループワークを行った。SDGsを知るための予備作業から、直近の経済事象との関連、既存のESG指標の利用などの予備作業を経た上で学生達が組成方針をプレゼンし、東証から参加下さったコメンテータによる具体的な評価を頂いた。

### おわりに

SDGs未来プロジェクトは、各教員が多角的な視点から多様なプロジェクトを進めるため、計画倒れに終わった部分もある。期待していた敬愛プログラムへの応募者は、一人も出せなかった。適切な候補となる学生は数名いたが、応募方法をよく教員の側が認知していなかったことが原因である。応募方法を教員も良く認知し、窓口を明確化することが今後の課題となろう。FDとの連携も2022年1月段階では実施できていない。3月までに可能であればFDと連携してSDGsの専門家のお話を伺いたい。なお、ESG投資の関係で、2006年から本学国際学部が続けている国連グローバル・コンパクトへのCOE（Communication on Engagement）は、本年度も無事に提出できた。今年から本学ホームページでも国連グローバル・コンパクトについて紹介することとなった。詳しくは以下の本学ホームページを参照されたい<sup>6)</sup>。また、高大連携によるSDGs集会は、共同研究のメンバーも、今年度はスタート時点から準備は間に合わないと考えていた。しかし二年計画であれば実現可能であろう。2022年度は、高大連携協議会（敬愛の系列高校と敬愛大学の連携の協議会）から、「高大で考えるSDGsシンポジウム」を大学のプロジェクトとし

て推進することを計画している。

《2022年度：学園全体を対象としたSDGs集会の計画表》

夏休み中：oViceを日を決めて開放、参加者とのコミュニケーションをはかる

「SDGs集会」の準備開始（講演依頼、設営等）～3月

9月：募集メ切→審査をイベント化

10月：学園祭 or SDGs集会で表彰

2023年3月：SDGs集会／国連のSDGs Weekなどに合わせる方法もあり

**(注)** 6) <https://www.u-keiai.ac.jp/outline-disclosure/information/koukai/#ebdd41e7>